

# 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西川副小学校

校長 大石 文枝

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。学力向上のためには学校と家庭の連携が必要です。改めて、お子さんの学力について考える機会と捉えていただけると幸いです。

■ 調査期日 令和4年4月19日（火）

■ 調査の対象学年 小学校6年生児童

## ■ 調査の内容

### (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- |  |
|--|
| ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。                      |
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

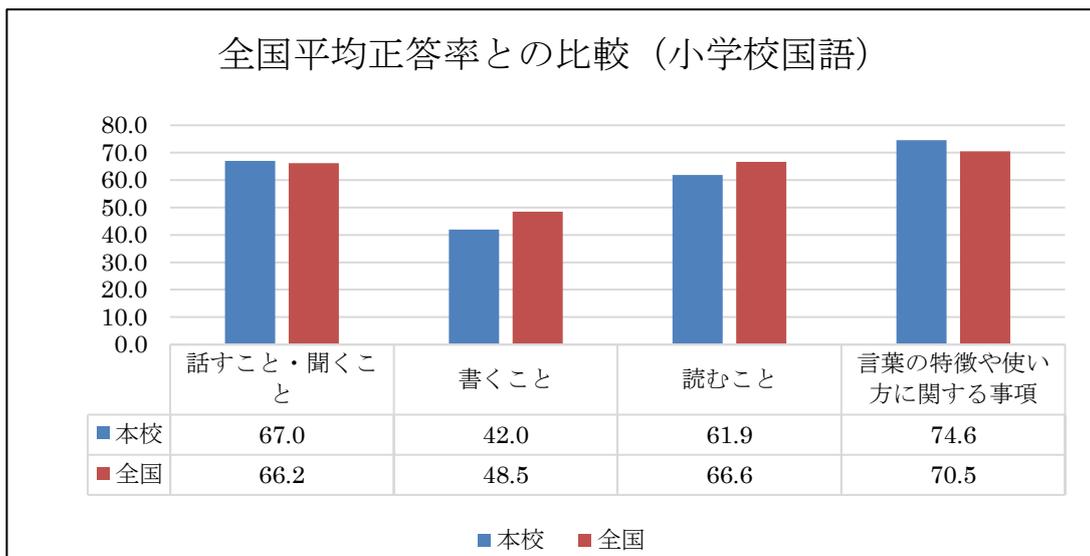
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

## ■ 調査結果および考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

# 1 国語

## (1) 領域別全国正答率との比較



「話すこと・聞くこと」領域、「知識・技能」は全国平均正答率を上回りました。無解答率は、全問題で全国平均より低くなっています。

## (2) 成果や課題

今回の調査では、「知識・技能」が全国平均正答率を4.1ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は「書くこと」領域です。今回は、友達が書いた文章のよいところを見つけ、伝える（書く）ことに課題が見られました。文章の構成や展開等、指定された観点で文章の良いところを見つける力や、問題に課せられた条件に応じて文章を書く力をつける必要があります。単なる「知識」を問う問題ではなく「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

## (3) 学力向上のための取組

### 【学校ではこんなことを取り組みます】

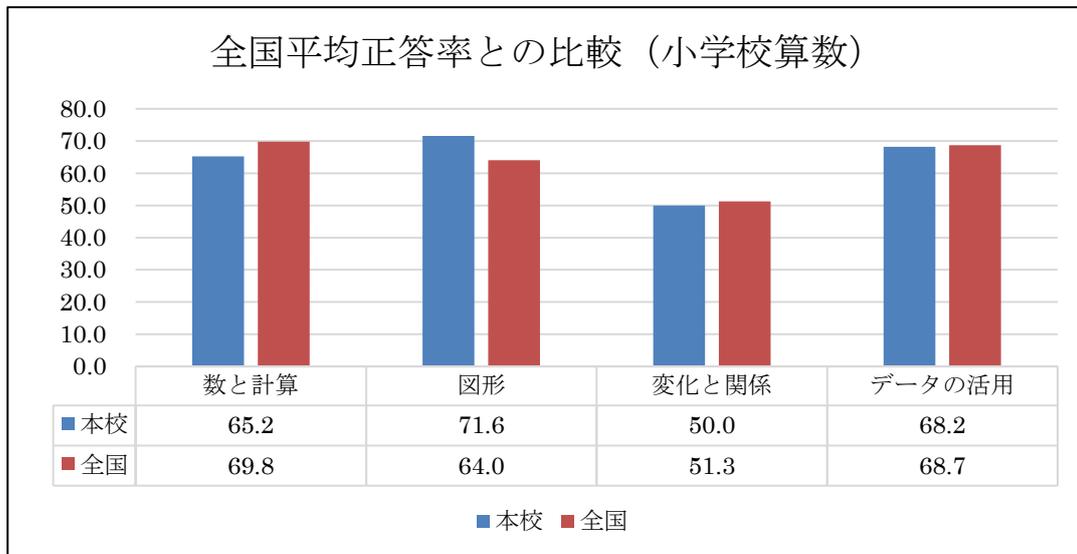
- 1 木曜日の朝のチャレンジタイム（10分）を使って、視写の他、テーマを決めた日記や好きなものの紹介文等、文章を書く活動を今後も継続していきます。
- 2 「書く力」をつけるために、いろいろな教科で学習のふりかえり文を書く等、まとまった量の文章を書くことに慣れるようにしていきます。
- 3 読書の機会を増やすための工夫をしていきます。図書館祭りの開催や、地域の方による読み聞かせなど、これまでも取り組んできたことをこれからも継続していきます。今年度は「全校で50000冊の貸出冊数」を目標に掲げ、到達度が分かるように、掲示物の工夫もしています。

### 【ご家庭ではこんなことを取り組んでみましょう】

- 1 美しく優れた表現のある文章を繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、まとまりを意識して読み取れるようになります。どの学年も音読の宿題をほぼ毎日出しています。大変かとは思いますが、音読を聞き、「すらすら読めたね」「気持ちがかもっていたね。」等、励ましの声かけをお願いします。
- 2 お子さんがどんな本を読書しているのか、一度見てあげてください。学校の図書館だけでなく市立県立図書館に行くなどして、お子さんの興味や関心のある事に関する本から読み始めると読書の習慣化につながります。読書の入口はどんなジャンルからでもいいですよ。

## 2 算 数

### (1) 領域別全国正答率との比較



「図形」領域が全国平均正答率を大きく上回りましたが、「数と計算」領域は下回りました。「変化と関係」「データの活用」は全国平均とほぼ同等です。また、ほぼすべての問題で、無解答率は全国平均より低くなっています。

### (2) 成果や課題

今回の調査では、「図形」領域の正答率が全国平均正答率を 7.6 ポイントと大きく上回っていました。また、「変化と関係」領域の、「25%」を分数で「 $1/4$ 」と表したり、「果汁が 40% で、飲み物の量が 1000mL のときの果汁の量」を「400mL」と解答したりする問題は、全国平均正答率を大きく上回りました。しかし、「果汁がふくまれている飲み物の量を半分にしても、割合は変わらない」という理解を問う問題の正答率が全国平均を大きく下回り、課題が見られました。今後、「割合」の問題に繰り返し取り組む中で、割合の概念を正しく理解していく必要があります。

また例年、思考力・判断力・表現力を問う記述式の問題が数問あります。日々の授業の中で、書く活動や説明する活動を継続して取り入れていくことが重要であると捉えています。

### (3) 学力向上のための取組

#### 【学校ではこんなことを取り組みます】

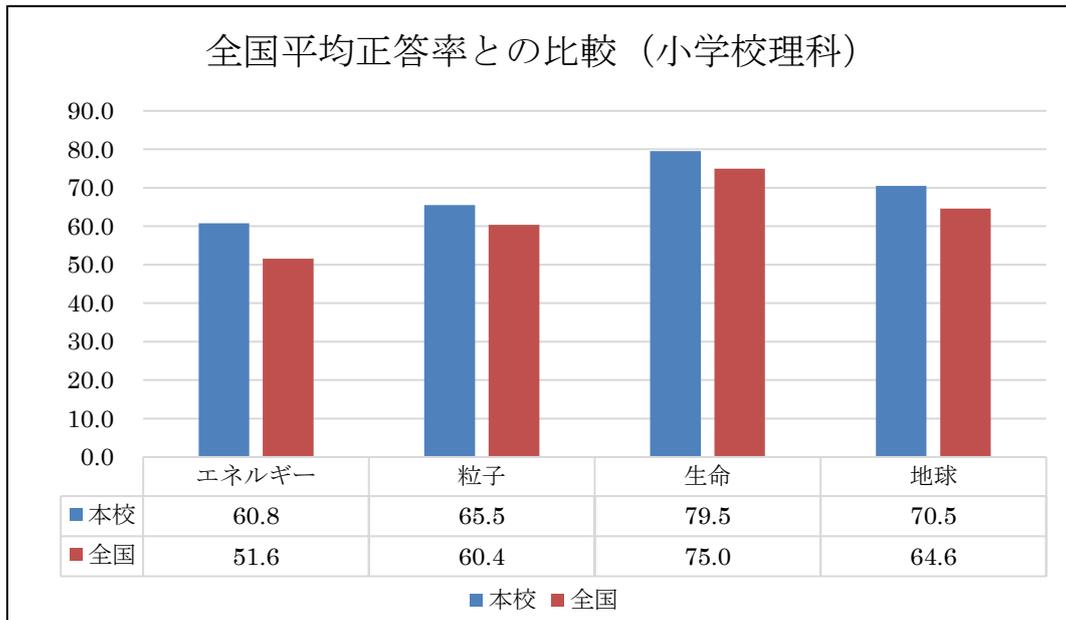
- 1 火曜日の朝のチャレンジタイム（10分）を使って、基礎学力の定着を目指して継続して取り組みます。
- 2 授業では、「考える」「書く」「話す」を柱に児童が考えを交流し学びが深まる場を設けて、授業の改善を目指しています。
- 3 今後も、TT 指導、ノートチェック、プリント、ドリル等、日々の指導の中で、個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めていきます。

#### 【ご家庭ではこんなことを取り組んでみましょう】

- 1 算数の基礎学力は、正確に計算できる力です。四則計算（たし算、ひき算、かけ算、わり算）ができないと、授業についていくことが難しくなります。計算力アップにつながるドリル問題に取り組むことも大切です。
- 2 お子さんのノートや宿題、テスト等に目を通して、学習への励ましをお願いします。お子さんが宿題等の取組の際に「分からない」と言ったときには、お家の方ができる範囲で話を聞いてください。答えを導くことができなくても、「分からないことが分かる」等、考えを整理できます。学習で大切な「粘り強さ」を養うことにもつながります。

### 3 理科

#### (1) 領域別全国正答率との比較



すべての領域、評価の観点で全国平均正答率を大きく上回りました。また、粘り強く最後まで取り組むことができています。

#### (2) 成果や課題

今回の調査では、すべての領域で全国平均正答率を大きく上回りました。特に「エネルギー」領域では9.2ポイント上回りました。しかし、実験で得られた結果を分析して解釈し記述する問題では、全国平均を上回っているものの、正答率は約40%です。実験結果の表やグラフの数値等を正しく読み取り、それらを根拠として考察する力に課題が見られました。また、「粒子」領域で、「メスシリンダー」という実験器具の名称を書く問題では、100%に近い正答率でしたが、目盛りを正しく読み取る問題の正答率が約65%でした。器具の正しい使い方にも身につける必要があります。

#### (3) 学力向上のための取組

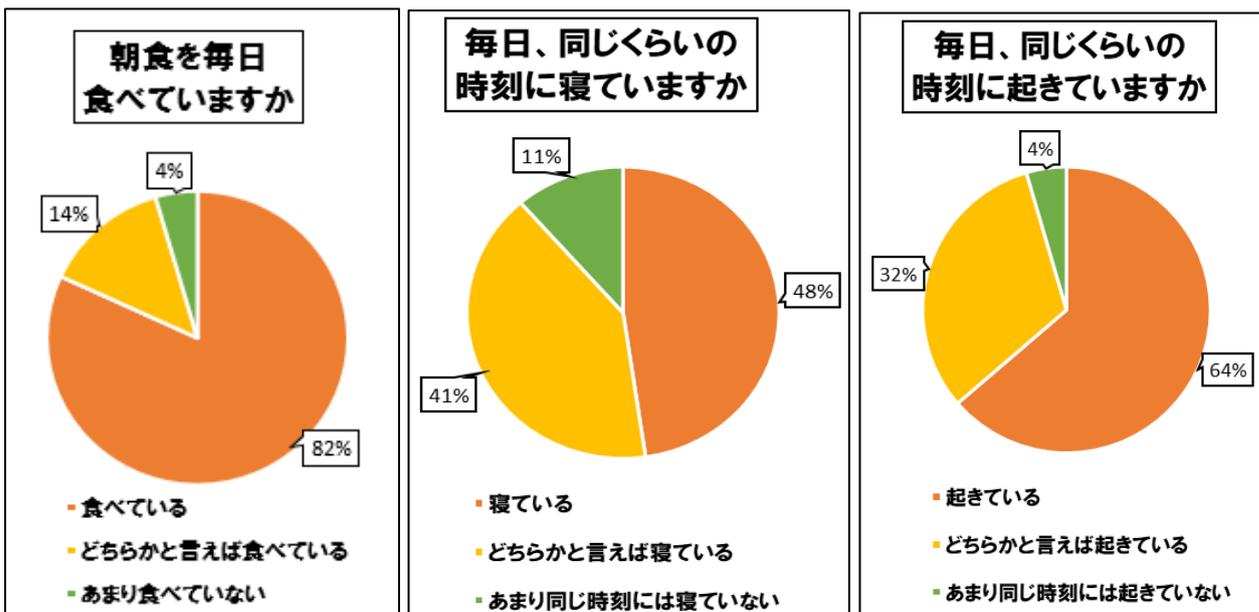
##### 【学校ではこんなことを取り組みます】

- 1 学習活動の中で、「なぜそうなるのか。」ということを、できるだけ考えさせるようにしています。
- 2 実験、話し合い、発表等の際、グループで役割を決める等、すべての子どもが学習に参加できるように工夫しています。
- 3 基礎学力の定着を図るために、以前の学習内容を振り返るための宿題プリントなどを定期的に出します。

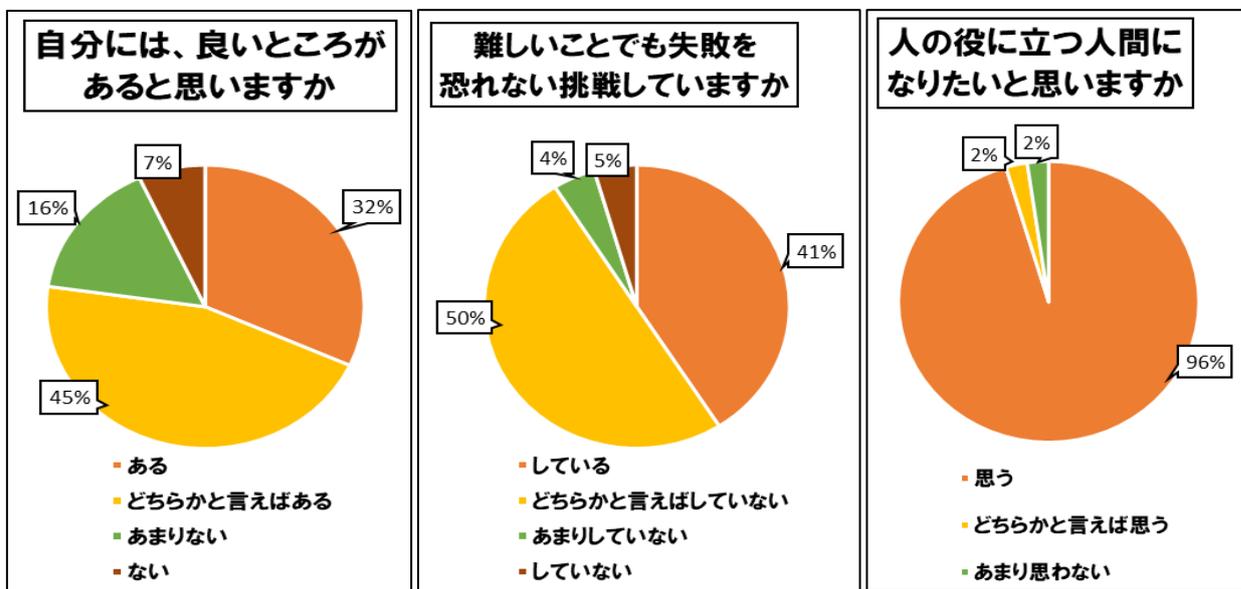
##### 【ご家庭ではこんなことを取り組んでみましょう】

- 1 宿題プリントに取り組む際に、分からないところは必ず教科書等で調べて書き入れるように話しています。分からないことを分からないままにしているか、宿題の取り組み方への見守りをお願いします。
- 2 テスト等に目を通されて、学習への励ましをお願いします。子どもたちには、その日のうちにもう一度見直し、次に同じような問題が出題されたときに間違えないようにと声をかけています。しっかりと復習できているか確認をお願いします。

#### 4 生活習慣や規範意識、学習習慣に関する調査

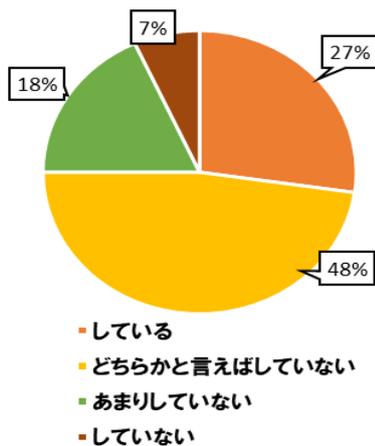


規則正しい生活習慣を送ることができている児童が多いです。少数ですが、朝食を食べずに登校する児童がいること、就寝するのが遅くなったり、朝起きることができなかつたりする児童がいます。「早寝・早起き・朝ごはん」を合い言葉に、規則正しい生活ができているか、見直す良い機会です。

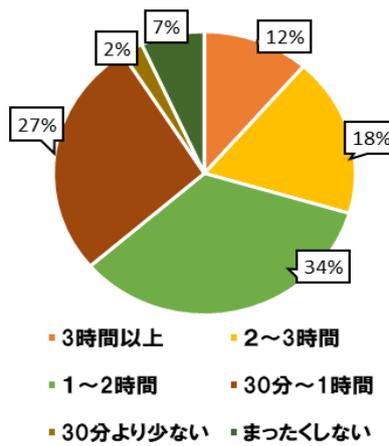


将来に人の役に立ちたいという思いを持っていることは、とてもよい傾向です。どの子もかけがえのない存在です。自分に自信をもって生活してほしいです。

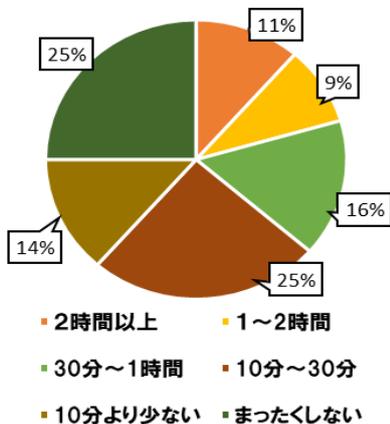
**家では、自分で計画を立てて学習していますか**



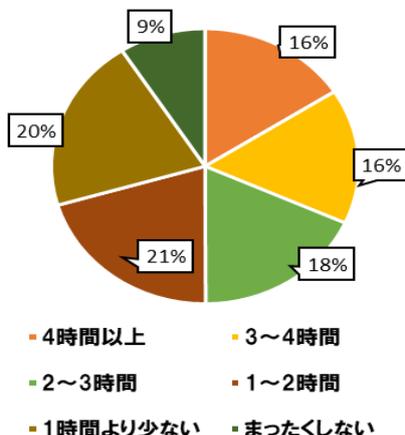
**普段、家でどのくらいの時間学習していますか**



**普段、家でどのくらいの時間読書をしていますか**



**普段、どのくらいの時間、ゲームをしていますか**



家庭学習時間については、1時間未満の児童が4割近くおり、中には家庭学習を「まったくしない」と回答する児童もいました。また、読書を「まったくしない」と回答する児童も4分の1います。ゲームの時間が2時間を超える児童が約半数です。家に帰ってから寝るまでの時間の使い方を見直す必要があります。

**【ご家庭ではこんなことを取り組んでみましょう】**

- 学年に応じた家庭学習時間を設定しています。低学年は30分、中学年は45分、高学年は60分です。学年に応じた時間を集中して学習する習慣を身につけることは、学校での学習の集中力の向上につながります。学習に集中できれば、理解も深まります。さらには中学校での学力にも大きく影響します。まずは、学年に応じた家庭学習時間を**毎日達成**できるよう、声かけをお願いします。5月に配布した「家庭学習の手引き」もご活用ください。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、規則正しい生活習慣の定着をお願いします。テレビやゲームなどの使用時間を決めるなど家庭でのルール作りも、学習習慣の定着につながります。
- 親子で読書、親子で調理など、親子での関わりを増やしてみましょう。共通体験を通じてかけられた保護者の言葉は子どもたちの胸に響き、これからの成長を後押ししてくれます。